

2号適用者に最適の社会資源はここ！ お世話になった社会福祉士さん、その1



執筆 ▶ 葉山 靖明 ● (株)ケアプラネット
「デイサービスけやき通り」代表取締役

私は41歳で介護保険2号適用を申請し、ケアマネさんに大変お世話になりましたが(6~8月号掲載)、今こうやって振り返ってみると、もう一人、大変お世話になった大切な方がいます。

その方はケアマネさんではなく、社会福祉士の方(以下、SWさん)であり、そのSWさんが勤める事業所は福岡県に13カ所ある「障害者就業・生活支援センター」の一つでした。

「就業」と「生活支援」の間に「ナカポツ」があり、専門家の間では「ナカポツ」と呼ばれ、全国に327カ所あります(2015年8月)。ところが、介護保険の関係者にも、病院のリハビリ職の人にもあまり知られていません。しかし、介護保険2号適用者にとっては、社会資源としてとても重要、かつ有効だと思います。

そのことを読者の皆さんにも知っていただきたくて、お世話になったそのSWさんのこと、センターのことを紹介したいと思います。私の体験、記憶、そして今回私がSWさんをインタビューさせていただいたことをもとに、これから3カ月にわたって原稿を書いていこうと思います。



通りすがりに 見つけた！

今から9年前の2007年。偶然、ある街の駅前を歩いていて通りすがりに

「障害者」「就業」「生活」という文字の入った看板を見て、ここは何…?と思いました。私が、元バックパッカーで、町にあるものから何でも情報収集するクセがあり、そのせいかもしれません。迷わず、その建物に入っていました。

SWさんにそのときの葉山の印象を聞くと、「いやー、ふらっと入ってきたなーって思いました(笑)。大体ここに来る前には、ハローワークとかの紹介ということが多いので、変わった人だなという印象でした。『ここ何するの?』みたいに好奇心丸出しでしたし…(笑)」

好奇心丸出して面白い言い方ですが、確かに私は好奇心だらけでした。だって、障害者である私の現在と未来の「就業」と「生活」を支援してくれる救世主のような存在に思えたのですから…。

そこで私はセンターの機能について質問したそうです。SWさんは、

「仕事のあっせんをするところじゃなくて、仕事探しのお手伝い、それに伴う生活上のご相談を受けるところです、という話をしました」

1回目の訪問でセンターの概要を聞き、2回目の訪問で「生活」「就業」について相談したとのことですが、何せ9年前のことですからうろ覚えです。

「葉山さんは受傷した経緯を話して、同じ職場に復職をすべきかどうか、離職をして新しい仕事を探した方が良いかというお仕事面の相談が一つと、あと一つは収入面や生活費のことについてご相談されました」(SWさん)

葉山 靖明 はやま やすあき
1965年福岡県生まれの51歳。専門学校で法人税法及び簿記論の講師を務めていた2006年、40歳のときに左脳の脳内出血発症し右片まひに。翌年それまでの職場を辞して(株)ケアプラネット設立。現在は、デイサービス経営のかたわら講義・講演活動を継続中。社会福祉法人「夢のみずうみ村」役員。人間科学修士

リハビリ出勤という形で復職はしたものの、希望通りの職種でなかったことへの懐疑心とネガティブな感情とで、私は迷っていたそうです。

「一緒に来られたお子さんも小さかったですし、生活費のことを心配されて…だから、障害年金制度についてお伝えしましたね」(SWさん)

子供は当時3歳、6歳、9歳の3人。2回目は3歳の長男を妻が連れての相談でした。われながら泣けてきます。復職時の話し合いのこと、ジョブコーチ、障害年金など一般的なケアマネさんとは違う情報提供をしてくれました。



2007年。私はこの建物を見つけ、ふらっと入って行きました。

生かすこともできます、と。同時に、事業を立ち上げるということは並大抵ではないですよ、とも言いました。お子さんは小さいし、奥さんのご理解と協力がないと…」

強気な私は、「もう、物件を抑えますから!」とか、言い張ったようです(失笑)。

だった。やっぱり、そこは介護保険でどうのこうのできることではないですから。ちょうどピッタリの時期に来ていただけたと思います。誰か呼んでくれたのでしょうか?(笑)」

おぼろげな記憶の中ですが、そのときは80キロ離れた実家の仏壇に祖母のお参りをして、帰宅途中にこのセンターを発見したと思います。あまり信心深い方ではないのですが、祖母がくれた巡りあわせ…なんて。

しかし、就業面と生活面という2号適用者の最も悩む部分の、いわば“駆け込み寺”のようなこのセンター。その当時には、「障害者就業・生活支援センター」は福岡県内に3カ所しかなかったのですが、今は13カ所。その増加ぶりは、大切な社会資源だという証しなのだと、私は思います。

(次号に続く)



新しい開業構想まで 相談してしまっただ!

私はここでも、独立してデイサービスを開業したいというむちゃな相談をしたようです。SWさんは、

「そのときに言いました。それは力のある人だったら不可能ではないし、前職(会計や税法の講師)や障害経験を



偶然? いや必然!

私がこのセンターに行ったことは良い選択だったと思いますか?との問いかけに、こう答えてくれました。

「まだ職場を離れるかどうかを悩んでいらっやっしたし、そこは就業面と生活面という、うち(センター)のストラクチャーの課題で揺れていらした時期

今月の私

母と二人で東京旅行!



私「……(そんなにお金がないんだけど…)」
母「私が元気なのは、やはりこの人の子供だから
かもしれない
ませぬね
(苦笑)。」

私「……(そんなにお金がないんだけど…)」
母「私は来年でもいいわよ! 次は神楽坂でいいわよ!」

私「次は4年後くらいに、また旅行に連れていってよ!」

私「次は4年後くらいに、また旅行に連れていってよ!」

私「次は4年後くらいに、また旅行に連れていってよ!」

私「次は4年後くらいに、また旅行に連れていってよ!」

私「次は4年後くらいに、また旅行に連れていってよ!」

7月、母親の傘寿お祝いに二人で東京へ旅行に行ってきました。父親はまだまだ現役の農業が忙しく、今回はこの旅行好きな二人の珍道中でした。東京旅行のプランと資金は私担当。まだ元気な母親に、親孝行ができてホントうれしいです。(^^)